

あいさつで犯罪を防ぐ

生駒北中学校 二年 猪口 咲希

私は、犯罪や非行のない社会を築くために、今の私たちにできることは「地域への関心を高める」ことだと思う。だから私は身の周りの人にあいさつをすることに賛成する。

「地域への関心を高める」と難しい言葉にしてみました。少しづつできることからいい。例えば、地域の伝統的工芸品などを知ること。実際に私が調べてみると生駒市高山町は茶せんがとでも有名で全国シェア九十パーセントを占めるという。でも、やはり、簡単でもとも身近なことは「あいさつ」だと考える。調べることには本やインターネットなどの道具が必要だが、あいさつは本人の意識でできるものだからである。最初は抵抗があるかもしれないが、友人や知人と一緒に始めてもいい。あいさつをすることで地域の人たちとコミュニケーションがとれるほか、地域の人とつながりを持つことができる。

ALSOOKのホームページによるとあいさつには犯罪や空き巣の犯行を防ぐ効果があるという。犯罪を犯そうと考えている不審者などが事前に下見をした時、その町で空き巣や犯罪をすることをためらったり、あきらめた理由として「声をかけられたから」が多かったそう。また、警視庁の万引きに関する調査によると、万引きなどをしようとしたところ、あきらめる要因として店員の声かけが、警備員のじゅん回や防犯カメラによる防止と比較しても、際立って高いことが分かったそう。あいさつや地域の人々が会話することには、地域の人たちが、地域の変化や異変に気付きやすくなる効果がある。そうになると、今度は、地域外の外部者へ向ける地域の人々のまなざしが犯行をためらわせる要因になる、と良いことがめぐっていくことができるのだ。逆に、あいさつを全くしない地域やルールを破ってばかりの場所は犯罪が犯しやすい。誰も異変に気付かないため犯罪が横行するという悪循環につながってしまう。つまり、あいさつで地域の人たちとつながりを持つことは地域の治安を守ったり、社会を形づくる大一步となるのだ。

この考えに対して、あいさつをすることで警戒心が薄れて、危険な事に巻き込まれたり、地域の人との関わりが深くなりすぎるといふ意見があるかもしれない。しかし、危険な事や事件に巻き込まれたりしないために地域の方が見守ってくれているのではないかと考える。また、深く関わらないために超えるべきでない一線をしっかりと守ることがとても大切だと思う。

「おはようございます」「こんにちは」「ありがとう」などのあいさつには地域の人たちとつながりを持てるだけでなく、犯罪を防ぐ役割もあったのだと知った。犯罪や非行のない社会を築くために身の周りや意識を変えてできることはあいさつで地域の人とコミュニケーションをとることだと思う。周りの人々への関心やつながりはやがて地域への関心になり犯罪の犯行をためらわせる要因になる。だから、私は、身の周りの人々にあいさつをすることに賛成する。

犯罪が必要のない社会を

生駒南中学校 三年 三橋 野乃子

私は犯罪や非行をしようと思ったことはありません。それはありがたいことに、ものを盗まなくても食べるものがある、不自由なく生きていくことができる、それはすなわち犯罪が必要なくても生きていくことができる、ということです。では犯罪を起こしてしまった人はどうだったのでしょうか。

私は以前にある事件を知って、深く考えさせられました。

それは、「京都伏見介護殺人事件」という、二〇〇六年二月一日に京都市伏見区の河川敷で起こった、五十四歳の男性が自分の母親を殺害したといった事件です。一見このニュースを見ただけだと、男性が悪いだけなんじゃないのか？と思うかもしれませんが、けれどこの男性は父親の死後、認知症を発症した母を休職してまでたった一人で介護していたのです。けどどうとうお金がなくて生活保護を申請しましたが、休職を理由に認められなかったそうです。男性は家賃などが払えなくなり、二人での心中を考えるようになります。

そして二〇〇六年の真冬の日、「もう生きられへんのやで。これで終わりや」「そうか、あかんのか」という会話をした後、心中を図りました。が、男性だけが命を取り留めたのです。

この事件の記事を読んだときから、「母の命を奪ったが、もう一度母の子に生まれたい」という裁判での男性の言葉が頭から離れなくなっていました。この言葉には、裁判官が言葉をつまらせ、法廷は静まり返ったそうです。本当にお母さんのことが好きだったんだな、とひしひし伝わってきました。そんな母親を自分の手で殺すなんて、なんと辛いことだったのでしょうか。とても心が痛みました。

どうしてこの男性はここまで追いこまれることになってしまったのだろうか、と考えさせられました。お金がなければ死ぬしか選択肢がないのかな、と考えるみたりもしました。けれどそれはあまりにも残酷すぎると思います。

お金がないと、人のものを盗まなければ、お店のものを盗まなければ生きていけない、それか死ぬしかない。なんてそんなことになっているのが問題だと思いました。裁判官も「裁かれているのは被告だけではない。介護制度や生活保護のあり方も問われている。」と言葉にしています。じゃあ何か改善策があるのか、と言われるとそう簡単にはでてこないのが難しいところなのです。けれどどうしようもない、なんてままには絶対にしたくありません。

犯罪を起こした人は子どもの頃、家庭が経済的貧困であったり、家庭内暴力を受けていたケースが多いのだときいたことがあります。そういった家庭で育った場合は、恵まれた家庭で育ててもらった私を持つている「自分が罪を犯して家族や周りの人を悲しませたくない。」といった考えがないのかと思いました。家族なんてどうでもいい、という考えを持っているのかと思うとなんとも言いようのない悲しい気持ちでいっぱいになり、とてもそれが原因で犯罪を起こした人を責めることができません。もちろん犯罪はしてはいけないことだけれど、犯罪が起こった経緯や犯人の状況をよく考えてみようと思いました。もし自分がこんな状況に置かれたらどのような行動をとっていたのだろう、このような犯罪が起こらないようするにはどうすれば良かったのだろうと考えてみようと思いました。私もし、生きていくのに困難な状況に陥いたら、まずは周りの人に相談してみたり、周りの人がそうなってしまったときには相談ののって助けられたらうれしいです。

犯罪が起こる前に、まずは犯罪の起こらない「犯罪が必要のない社会」をつくっていくにはどうしたらいいのかを、一人ひとりがしっかりと考えていくことが大切だと思います。これは私も考えていきたいし、みなさんにも考えてもらって犯罪と向きあうことをしてほしいです。そしてそれが、「犯罪が必要のない社会」へと繋がっていくことを願っています。

心を解かすことから始めよう

光明中学校 二年 阪上 音葉

以前テレビで、少年院での生活の特集するドキュメンタリー番組を見たことがある。

私はそれまで少年院というものを知らなくて、名前すらも聞いたことがなかった。自分と同じ年くらいの子が罪を犯してそこで生活していると知ってとても驚いた。そして、なぜ少年院に入らなければならない程の罪を犯してしまったのか、その理由が気になった。

少年院に入っている子達の話の話を聞いているとその多くが家に帰りたくなくて家を出をしていたり、夜に繁華街に出掛けたりする間に犯罪に巻き込まれたり、イラ立ちをぶつける所が見つからなくて喧嘩をして相手にケガをさせてしまっていることがわかった。

なぜ家に帰りたくなかったのか、という質問に、家に帰ってもおもしろくないから、ご飯を作ってもらえないから、帰っても誰も喜ばないから、というような答えが返ってきていた。

この人達にはたとえ家があったとしても、そこが自分の帰る場所ではなかったんだなあ。家に自分の居場所がなかったんだなあ。と思って複雑な気持ちになった。

少年院の中でカウンセリングをしている場面があつて、簡単な計算問題が解けなかったり、小学一年生の漢字が読めない子もいた。

そして、ここに丸いケーキがあります。これを三人で食べられるように同じ大きさに分けて切って下さい、という問題では、誰一人分けることが出来なかった。これだと大きいケーキと小さいケーキがあるよ。全員同じ大きさのケーキを分けてあげたいんだけどできる？と聞かれた時その子は、「なんで同じ大きさにしないとあかんの？」「食べられたら何でもいいやん。」と答えていた。

私は、自分だけ良ければいいと思っているんだな。相手の気持ちを考えようとは思わないんだな。と感じた。

その他にも少年院で生活している中で、相手の気持ちや自分の気持ちに気付くためのカリキュラムを行っていることを知った。

その中で、その場面場面で「今はどういう気持ち？」「こういう時はどう思う？」などと先生に聞かれていたが、「イライラつくなあ。」「イライラするわ。」とばかり答えていた。同じ部屋の友達を見ても、「話し声がうるさくてイライラつく。」「ご飯の前には、「おなががすいてイライラする。」誰かどぶつかった時も、「イライラつく。」そんな言葉しか出てこなかった。

少年院の先生が「ここに居る子たちは感情を表現したりするのが苦手です。だからどんな時にも、イライラつく、の一言で片付けてしまったり、怒りをぶつけてしまうんです。」「表現方法や気持ちの整理の仕方を知らない子が本当に多いんです。」と言っていた。

家庭での居場所がなく、自分自身も氣遣ってもらったり、優しい言葉や心配する言葉を掛けてもらったことがなかったから、相手を思いやる気持ちを持ってなくなったのかなあ。と私は思った。

少年院に入ってきた時は、先生や周りの子たちにも暴言ばかり吐いたり、イライラする。」「しか言わなかった子が、自分が体調を崩した時に、「大丈夫か?。」「無理しなくていいぞ。」「ご飯は食べられるか?」等と声を掛けてもらえることが初めてですごく嬉しかったと言っていた。

そしてすごく顔が優しくなって話す時の声も優しくなっているように感じた。

私も自分が困った時や失敗した時に、氣遣ってもらったり優しい言葉を掛けてもらえるのと心が暖かくなるし相手にも同じようにしてあげようと思う。

悩みや失敗など人間なら誰でもあると思うが、そんな時に怒ったり悲しい言葉や冷たい態度をとるのではなく、自分がされて嬉しいと思うことを周りの家族や友達にもしてあげたいと思う。